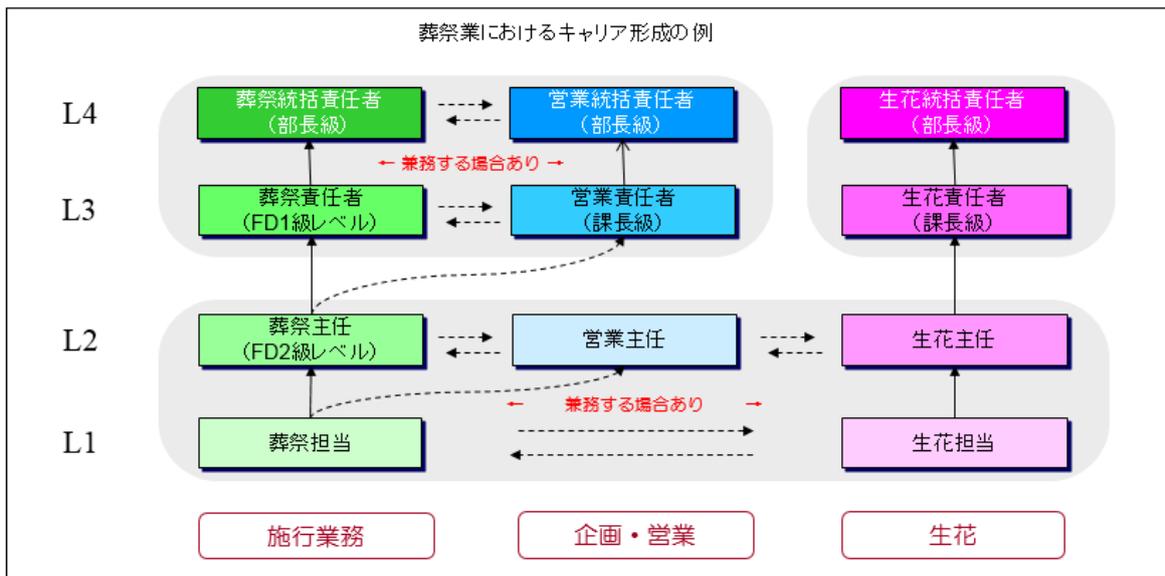


職業能力評価基準（葬祭業）におけるレベル区分の目安

レベル	レベル区分の目安			呼称イメージ	資格検定制度との関連
	施行业務	企画・営業	生花		
レベル4	●あらゆる葬儀について体系的かつ網羅的な知識と技能を有し、リーダーシップを発揮して業務全体を統括することで、高い顧客満足を実現できる能力水準	●あらゆる葬儀について体系的かつ網羅的な知識を有し、戦略的な商品企画や営業戦略の推進をリードできる能力水準	●あらゆる葬儀について体系的かつ網羅的な知識を有し、生花において他社との差別化を実現し、高い顧客満足を実現できる能力水準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部長 ・ 統括責任者 など 	
レベル3	●全ての葬儀における相談、会場設営、式典運営等の葬祭サービスの詳細な知識と技能を有し、個人葬のみならず社葬、団体葬等についても業務を統括できる能力水準	●葬祭サービスに関する詳細な知識を有し、新商品・新サービスの企画立案や営業活動を統括できる能力水準	●葬祭サービスに関する詳細な知識を有し、高い専門性に基づき、生花業務を統括できる能力水準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葬祭ディレクター ・ 課長 ・ 責任者 など 	葬祭ディレクター技能審査1級程度に相当
レベル2	●個人葬における相談、会場設営、式典運営等の葬祭サービスの一般的な知識と技能を有し、担当業務を独力で遂行できる能力水準	●葬祭サービスに関する一般的な知識を有し、担当範囲の営業活動を的確に遂行できる能力水準	●葬祭サービスに関する一般的な知識を有し、担当範囲の生花業務を独力で遂行できる能力水準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 係長 ・ 主任 など 	葬祭ディレクター技能審査2級程度に相当
レベル1	●葬儀についての基本的な知識と技能を有し、上司の指示・助言を踏まえて日常業務を遂行できる能力水準	/	●葬儀についての基本的な知識を有し、上司の指示・助言を踏まえて日常的な生花業務を遂行できる能力水準	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフ ・ 担当者 など 	

葬祭業におけるキャリア形成の例

- 多くの新入社員は入職後は「施行业務」職種に配属され、様々な種類や規模の葬祭施行を経験しながら葬祭サービス担当者としての専門性を深めていく。一定の経験を積んだのち、「企画」や「営業」の仕事に移る場合があるが、「施行业務」と兼務するケースも少なくない。
- 「生花」は内製する場合と外注する場合がある。内製する場合であっても、独立した職種としているケースと「施行业務」の担当者が兼務するケースとに分かれる。ただし、上位レベルになると高い専門性が求められるため、兼務ではなく専門スタッフが担当するケースが多い。
- いずれの職種についても、異業種からの中途入社も少なくない。



※ FD=葬祭ディレクター技能審査